

# 『音楽学』書式の原則

『音楽学』編集委員会では第47巻1号（2001年度刊行）より、書式について統一をはかることにしました。学術論文の書式には言語や分野によって様々な方式があり、絶対的な基準が存在するわけではありませんが、執筆者は可能な限りこの「書式の原則」に則ってください。なお編集委員会は執筆者のご意見を尊重しつつ、必要と認める場合に書式上の統一を行うことがあります。

[2022年3月16日 一部改正]

当文書では全角スペースは□、半角スペースは\_で表します。

2017□*Journal\_of\_the\_Musicological\_Society\_of\_Japan*\_は、実際には  
2017 *Journal of the Musicological Society of Japan* となります。

## 1 論文の基本構成（「研究と報告」もこれに準じる）

・和文による論文の基本構成は以下の通り（\*印で挟んだ部分は必要がなければ省略可）。

和文タイトル \*——副題——\*（副題を2倍ダッシュで囲む）  
欧文タイトル \*:\_副題\_\*  
本文  
注  
引用文献  
\*参照楽譜\*  
\*参照音源\*

・欧文による論文の場合は、欧文タイトル、和文タイトルの順とする。それ以外は和文による論文の基本構成と同じ。

・原稿には、ページ下中央にページ数を記載する。

・論文の場合、和文要旨ならびに欧文要旨を本文とは別ファイルにまとめ、以下を記す。

「研究と報告」に要旨は必要ない。

【ファイル1】和文タイトル・和文要旨

【ファイル2】欧文タイトル・欧文要旨

・執筆者名は、査読の際に伏せるため本文ならびに要旨には記さず、別のファイルにタイトルとともに日本語と英語で記して添付する。執筆者姓名の順は各言語の順序に従い、姓はすべて大文字で記す。

例1 伊澤修二 IZAWA Shuji

例2 クラーラ・ヨゼフィーネ・ヴィーク＝シューマン Clara Josephine WIECK-SCHUMANN

## 2 書評・紹介の基本構成

・書評・紹介の基本構成は以下の通り。\*印で挟んだ部分は必要がなければ省略可。

書誌データ  
本文  
\*参考文献\*

執筆者姓名（右寄せ・ゴシック体）

・書誌データ

著者名または編者名（姓名の後に日本語で「著」「編」等を記す）

書名

和書の場合は『 』の中に入れ、洋書の場合はイタリックにする。

和書の副題を表す2倍ダッシュは副題の前のみとする。

（出版地：出版社，出版年月日，ページ数，価格，ISBN）

出版地の後にコロンを入れる（和書は全角，洋書は半角）

出版地（都市名）が複数ある場合は主要なものを記す。

洋書は出版年のみを記載する。

ページ数は半角を用い，対象書の記載に準じて記す。

例1 （和書） 277 + xvi 頁

例2 （和書） v + 370 頁

例3 （洋書） xx + 246 pages

例4 （洋書） xxxiii + 583 Seiten

価格は和書の場合には「税抜き価格 + 税」とし，洋書の場合は価格のみを記す。

例5 ¥3,000 + 税

例6 £70

例7 \$120.00

・和書の書誌データ記載例

例8 塚田健一著

『アフリカ音楽学の挑戦——伝統と変容の音楽民族誌』

（京都：世界思想社，2014年2月28日，図版4 + x + 408頁，¥5,800 + 税，

ISBN978-4-7907-1617-4）

例9 周東美材著

『童謡の近代——メディアの変容と子ども文化』（岩波現代全書 076）

（東京：岩波書店，2015年10月21日，viii + 277頁，¥2,500 + 税，ISBN978-4-00-029176-7）

・複数の著者、編者による著作

「他」、「et al.」を使わずに全員（10名まで）の名前を記す。名前はカンマで区切る。

例10 西田紘子，安川智子編著，大愛崇晴，関本菜穂子，日比美和子著

『ハーモニー探究の歴史——思想としての和声理論』

（東京：音楽之友社，2019年1月31日，190頁，¥2,500 + 税，ISBN978-4-276-10254-5）

・洋書の書誌データ記載例

例11 Suzel Ana Reily, Katherine Brucher 編

*Brass Bands of the World: Militarism, Colonial Legacies, and Local Music Making*

(Surrey; Burlington: Ashgate, 2013, xx + 246 pages, £95.00, ISBN978-1-4094-4422-0)

・原稿には，ページ下中央にページ数を記載する。

### 3 文字等の表記

・文献の引用・固有名詞などの特殊な場合をのぞき、現代仮名遣いと常用漢字を使用する。

・主要な人名は初出時にフルネームで記し、原綴と生没年を併記する。数字は en ダーシで繋ぐ。

例1 フランシス・プーランク\_Francis Poulenc (1899–1963) は…

・日本人の名前は初出時にフルネームで記し、丸括弧内に生没年を併記する。数字はハイフンで繋ぐ。なおハイフンは組版の際に二分ダーシに変換される。

例2 武満徹 (1930–1996) \*名前と数字に MS 明朝を使用した場合

・外国語のカタカナ書きは、論文中で統一されている限り特殊な表記も差し支えない。

・数字は原則としてアラビア数字を用いる。ただし慣用語、固有名詞、度量的意味の薄いものには漢数字を用いてもよい。アラビア数字は文献表や文献参照箇所を示すページ数を含めすべて半角を用いる。本文中では1桁数字は組版の時点で全角の真ん中におかれる。

・同じ語の表記は原則として統一する。例えば、以下のような語は表記の混在が起りやすいので、注意が必要。「～のなかで／～の中で」「～のとおり／～の通り」「できる／出来る」「わかる／分かる」「たしかに／確かに」等。

・各種記号の使用法については「書式の原則」最終ページに示した表を参照のこと。

・ピリオドの後には半角スペースを挿入する。

例3 J. \_S. \_バッハ

例4 ピアノ協奏曲第 21 番ハ長調 K.\_467

#### 4 本文における引用

・短い引用は鉤括弧「 」を使う。

・鉤括弧「 」で括った引用文中の「 」は『 』に変える。

・長い引用は独立した段落とし、前後の段落とは1行空けて、全角2文字下げる。

・引用文中の中略には [……]を用いる。

#### 5 注の付け方

・投稿時には後注方式で執筆する（本誌掲載のための組版の時点で、音楽之友社編集部において脚注方式に変換する）。

・注記番号にはアラビア数字を用い、番号のみを当該箇所の右肩上に記す（組版の時点で所定の方式に変換する）。

例1 The means by which the traditional Western composers have attempted to communicate with their audience have been discussed at length by Eduard Hanslick,<sup>2</sup> Heinrich Schenker,<sup>3</sup> Suzanne Langer,<sup>4</sup> and

Leonard Meyer,<sup>5</sup> to name but a few.

例2 「音場は、温度などの環境変化によって常に変動し、また騒音信号も常に定常的とは限らない<sup>16</sup>」。

- ・注で書誌情報を詳しく記述する方式は避け、参照した文献の詳しい書誌情報は、論文の最後に「引用文献」としてまとめる。
- ・注のなかで書誌情報に言及する必要がある場合は、本文と同様に丸括弧方式で言及する。

## 6 引用文献・参考文献・参照資料の書式

- ・文献の表示には原則として著者－刊行年（Author-Date Reference）方式を用いる。
- ・日本語文献（資料）は著者姓の五十音順、欧文文献（資料）は著者姓のアルファベット順にそれぞれ配列する。
- ・インターネットを通じて文献等を引用・参照した場合には、その情報を明示する。

### （1）日本語文献

#### 単行本

〈基本例〉 著（編）者名□刊行年□『書名』（叢書情報等）□刊行地：刊行所〔収録情報等〕

例1 林謙三□1964□『正倉院楽器の研究』□東京：風間書店

#### 古典文献

- ・基本的に現代の刊行物に準ずる。ただし、活字本・校注本・訳注本・復刻本・影印本などの場合は底本を主とし、参照した書籍の書誌情報を〔収録情報等〕として加える。

例2 秀松軒（編）□元禄 16（1703）□『松の葉』□京都：井筒屋庄兵衛，万木治兵衛〔復刻版  
□浅野健二（校注）□1959□『中世近世歌謡集』（日本古典文学大系 44），341-530□東京：  
岩波書店〕

複数著者 例3 今谷和徳，井上さつき□2010□『フランス音楽史』□東京：春秋社

複数編者 例4 細川周平，片山杜秀（監修）□2008□『日本の作曲家』□東京：日外アソシエーツ

例5 フェルド，スティーブン□1988□『鳥になった少年——カルリ社会における音・神話・象徴』  
（テオリア叢書）□山口修，他（訳）□東京：平凡社

#### 論文集（単行本）内の1論文

例6 ミドルトン，リチャード□2011□「序章——音楽研究と文化の思想」『音楽のカルチュラル・  
スタディーズ』□マーティン・クレントン，トレヴァー・ハーバート，リチャード・ミド  
ルトン（編著）□若尾裕，ト田隆嗣，田中慎一郎，原真理子，三宅博子（訳），1-18□東京：  
アルテスパブリッシング

\*日本語文献のページの範囲を示す場合は、数字をハイフンで繋ぐ。

#### 雑誌等

- ・近年定期刊行物が増えているため、発行者名を付すこととする。ただし本誌『音楽学』や発行者名が明白な場合に  
ついては、発行者名（日本音楽学会など）を省いてよい。

〈基本例〉 著者名□刊行年□「論文名」□発行者名『雑誌名／紀要名』巻号：ページ

例7 林光□1991□「創造と日常のあいだ——バッハ・モーツァルト・宮澤賢治」□音楽教育の会『音楽教育』325：7-20

\*日本語文献のページ数の前には全角コロンを用いる。ページの範囲を示す場合は、数字をハイフンで繋ぐ。

例8 相沢陸奥男□1954□「音楽学の成立並に各分野の関連に就て」『音楽学』第1巻1号：7-20

例9 角倉一朗□2000□「20世紀のバッハ研究」『東京藝術大学音楽学部紀要』第26集：47-65

## 新聞等

〈基本例〉 著者名□刊行年□「記事タイトル」『新聞名 必要に応じて地域版名』掲載日付と朝夕刊の別や版：ページ

例10 谷村晃□1961□「ヒュッシュの枯淡な味」『朝日新聞』1961年12月5日□大阪本社版夕刊：5  
・インターネットを通じて定期刊行物を引用・参照した場合

例11 著者不明□2008□「慶応150年式典に天皇，皇后両陛下」『朝日新聞』2008年11月9日朝刊：社会面（『聞蔵Ⅱビジュアル』<http://database.asahi.com/>□2017年2月7日閲覧）

## (2) 欧文文献

文献のタイトル表記は以下の原則に従って記述する。

英語 タイトルにはセンテンス方式ではなく、ヘッドライン方式を用いる。最初の文字、および全ての名詞、動詞、形容詞、副詞の頭文字は大文字とし、その他は小文字とする。

仏語 タイトルの最初の文字および固有名詞の頭文字は大文字とし、その他は全て小文字とする。

独語 タイトルの最初の文字、および全ての名詞の頭文字を大文字にする。

他の言語 ローマ字に転写したアラビア語、ロシア語などは当該言語の習慣に従う。

## 単行本

〈基本例〉 著者姓，\_名.\_刊行年.\_書名.\_刊行都市名：\_刊行所。[必要に応じて翻訳書情報等]

例12 Small, Christopher. 1998. *Musicking: The Meanings of Performing and Listening*. Hanover, NH: University Press of New England. [スモール，クリストファー□2011□『ミュージッキング——音楽は「行為」である』□野澤豊一，西島千尋（訳）□東京：水声社]

複数の編者による著作

例13 Blum, Stephen, Philip V. Bohlman, and Daniel M. Neuman, eds. 1993. *Ethnomusicology and Modern Music History*. Urbana: University of Illinois Press.

論文集（単行本）内の1論文

例14 Gould, Glenn. 1984. "Streisand as Schwarzkopf." In *The Glenn Gould Reader*, edited by Tim Page, 308-11. New York: Vintage Books.

\*ed.を用いず、edited by とする。

\*欧文文献のページの範囲を示す場合は、数字をenダーシで繋ぐ。

著者に加えて編者、翻訳者がいる著作

例15 Adorno, Theodor W., and Walter Benjamin. 1999. *The Complete Correspondence 1928-1940*. Edited by Henri Lonitz. Translated by Nicolas Walker. Cambridge, MA: Harvard University

Press.

\*大文字で Edited by, Translated by とする。

刊行都市名は代表的なもの一つのみ記す。二つ以上あげる必要はない。

×Berkeley and Los Angeles: University of California Press.

○Berkeley: University of California Press.

ほかに同じ名前の都市がある場合、またあまり知られていない都市は、州名の略号を添える。

ただし、出版社名に州名が含まれる場合は、州名は入れる必要はない。

Cambridge, MA: Harvard University Press

Cambridge: Cambridge University Press

Westport, CT: Greenwood Press

Urbana: University of Illinois Press

### 雑誌等

〈基本例〉 著者姓, 名. 刊行年. “論文名.” 雑誌・紀要名 巻号: 論文全体のページ.

例16 Cummings, Paul. 2016. “The Pivotal Role of Hans Richter in the London Wagner Festival of 1877.” *Musical Quarterly* 98, no. 4: 395–447.

\*雑誌名にしばしば付される The は省略できる。

例17 Shelemay, Kay Kaufman. 1980. “Historical Ethnomusicology: Reconstructing Falasha Liturgical History.” *Ethnomusicology* 24, no. 1: 233–258.

同一著者の表示

例18 Lewin, David. 1982. “A Formal Theory of Generalized Tonal Functions.” *Journal of Music Theory* 26, no. 1: 23–60.

———. 1992. “Some Notes on Analyzing Wagner: ‘The Ring’ and ‘Parsifal’.” *19th-Century Music* 16, no. 1: 49–58.

\*3-em dash の後にピリオド（編者の場合コンマ——, ed.）を用いて略記する。

\*日本語の場合は——の後にピリオドは要らない。

同一著者による同一刊行年の著作

例19 Hindley, Clifford. 1990a. “Contemplation and Reality: A Study of Britten’s ‘Death in Venice’.” *Music and Letters* 71, no. 4: 511–23.

———. 1990b. “Why Does Miles Die? A Study of Britten’s ‘Turn of the Screw’.” *Musical Quarterly* 74, no. 1: 1–17.

\*同一著者による同一年に刊行された著作は、タイトルのアルファベット順（冠詞は除く）に従って、刊行年に a, b, c をつけて区別する。

### (3) 漢籍・中国語文献

漢籍

・古典籍（和刻本、日本漢籍、高麗本等を含む。また版本・手抄本を含む）

〈基本例〉（朝代）撰（編）者名□刊行年□『書名』（叢書情報等）□刊行地：刊行所〔書誌情報等〕

例 20 （清）錢大昕（撰）□（清）錢慶曾（校注）□ 1876□『十駕齋新録二十卷余録三卷』□ 浙江：浙江書局〔光緒二年丙子(1876)浙江書局重刻，8冊1帙，木版，線装〕

・活字本（排印本）・校注本・訳注本・復刻本・影印本等

原則として「(1) 日本語文献」の古典文献の欄に準ずる。

\*書名や引用文は基本的に日本の常用字体を用いることとするが、必要に応じて原書の字体（正字

体・旧字体・異体字など) を用いてもよい。

\*原則として中国の人名には「(唐) 白居易」「(北宋) 沈括」のように朝代・年代を( )に入れて添える。撰者未詳の場合は「佚名(撰)」とする。

#### 中国語文献

・現代中国語による著作や論文の場合、基本的に日本語文献に準ずる。

\*書名や引用文における中国語の簡体字・繁体字は原則として日本の常用字体に改める。ただし特に必要な場合は簡体字・繁体字の使用を妨げない。

例21 楊蔭瀏□1981□『中国古代音楽史稿』□北京：人民音楽出版社

(特に字体を論ずるのでない限り「杨荫浏『中国古代音乐史稿』」とはしない)

#### (4) 事典の項目

例22 Planchart, Alejandro. 2001. “Dufay.” In *The New Grove Dictionary of Music and Musicians*. 2<sup>nd</sup> ed., edited by Stanley Sadie and John Tyrrell. London: Macmillan.

例23 Guignard, Silvain. 1994. „Biwa.“ In *MGG2. Sachteil 1, 1556–1559*.

\*ドイツ語の事典の書式は英語の場合と異なる。

#### (5) 視聴覚資料

作曲家、録音年、録音タイトル、演奏家・演奏団体名、指揮者、レーベル名、出版年、種類を記す。

作曲家に基づく表示

例24 Brahms, Johannes. 2008. *Gergiev Conducts Brahms “Ein Deutsches Requiem.”* Swedish Radio Choir and Rotterdam Philharmonic Orchestra conducted by Valery Gergiev. Performed May 25, 2008. Åkersberga, Sweden: BIS, 2010. DVD.

演奏家に基づく表示

例25 Rubinstein, Artur, pianist. 1946 and 1958–76. *The Chopin Collection. Recorded 1946, 1958–67.* RCA Victor/BMG 60822-2-RG, 1991, 11 CDs.

編者等がいる場合

例26 雅楽紫絃会□『雅楽大系』□芝祐靖(監修)□ビクター伝統音楽振興財団：VZCG-8125-8, 2002, 4 CDs.

#### (6) 視聴覚資料に添えられた文章(CD解説など)

例27 湯浅譲二□1997□「実験工房コンサート」□『実験工房の音楽』, 10-17□FONTEC：FOCD3417

例28 Munrow, David. 1976. “Music of the Gothic Era.” *Liner notes for Music of the Gothic Era*, 10-24. ARCHIV 453 185-2.

\*日本盤のCD解説のページ数の範囲はハイフン(日本語用)で、海外盤のCD解説のページ数の範囲はenダッシュで示す。CD番号にはハイフン(欧文用)を用いる。

・インターネットを通じて録音や録画を視聴した場合

例29 林広守□《君が代》□辻順治(指揮), 陸軍戸山学校軍楽隊□ビクター, 52084, 1932-01(『国立国会図書館デジタルコレクション 歴史的音源』□<http://dl.ndl.go.jp/info:ndljp/pid/3579872>□2016年3月31日視聴)

#### (7) 楽譜

作曲者名、出版年、曲名、編者・校訂者名、曲(集)名等を記す。

例30 山田松黒(編)□安永8(1779)□『箏曲大意抄』全6冊□名古屋：尾張書肆

例31 Verdi, Giuseppe. 2008. *Giovanna d'Arco, drama lyrico in four acts.* Libretto by Temistocle

- Solera. Edited by Alberto Rizzuti. 2 vols. Works of Giuseppe Verdi, ser. 1, Operas. Chicago: University of Chicago Press; Milan: G. Ricordi.
- 例32 Schubert, Franz. 1988. “Fantasie in C.” In *Werke für Klavier zu zwei Händen, Band 4 Klavierstücke I*, edited by David Goldberg. Neue Ausgabe sämtlicher Werke, vol. 7, no. 2, 83–97. Kassel: Bärenreiter.

## (8) ウェブサイト

著者，発表年，ページ名，ウェブサイト全体の名称，アドレス，更新日（または閲覧年月日）等を記す。

- 例33 東京大学附属図書館□[2003] □「博覧会関係資料（常設展2003年4月～6月）□  
[http://www.lib.u-tokyo.ac.jp/tenjikai/josetsu/2003\\_04-06/](http://www.lib.u-tokyo.ac.jp/tenjikai/josetsu/2003_04-06/)□（2015年12月31日閲覧）
- 例34 著者・発表年不明□「東洋汽船北米航路汽船発着表」（『20世紀時刻表歴史館』ウェブサイト内）  
 □[http://www.tt-museum.jp/taiyo\\_0030\\_tyk1924.html](http://www.tt-museum.jp/taiyo_0030_tyk1924.html)□（2016年4月1日閲覧）

ブログ

- 例35 Oramo, Ilkka. 2007. “The Sibelius Problem.” *Studies in Music and Other Writings* (blog),  
 \_October 1, 2007. <https://relatedrocks.com/2007/10/01/the-sibelius-problem/>

DOIの表示

従来使われているURL（Uniform Resource Locator）の代わりにDOI（Digital Object Identifier デジタル・オブジェクト識別子）を示してもよい。DOIは電子資料を恒久的に特定できる方式であるため，閲覧日を表示する必要はない。

- 例36 Middleton, Richard. 2004. “Lennon, John Ono (1940-1980).” In *Oxford Dictionary of National Biography*. Oxford University Press, 2004; online ed., 2011.  
<https://doi.org/10.1093/ref:odnb/31351>.
- 例37 Brown, Maurice J. E. 2001. “Barcarolle (Fr.; It. Barcarola).” Revised by Kenneth L. Hamilton. In *Grove Music Online*. <https://doi.org/10.1093/gmo/9781561592630.article.02021>

## 7 本文における引用文献・参照資料の提示方法

本文中で文献を引用または参照する場合は，言及した直後に著者姓，発行年，参照ページ等の書誌情報を丸括弧でくくり，本文に挿入する（例1）。著者姓と発行年の間は半角スペース，発行年とページ数の間はカンマと半角スペースとする。丸括弧は，言及文献の和洋を問わず全角で入力する。

- 例1 (Dahlhaus\_1983, 277)  
 (末吉\_2000, 24)

複数の著者、編者による著作

- 例2 (西田, 安川, 他\_2019, 112)  
 (細川, 片山\_2008, 348-349)  
 (Adorno and Benjamin\_1999, 112-113)  
 (Nettl et al. 1992, 18-23)

- \*注や括弧注では全員の名前を書かずに「他」を使う。
- \*欧文文献の著者（編者）が4名以上の場合は et al. を使う。
- \*括弧注に「監修」，「編」，「eds.」は入れない。
- \*f. ff.はなるべく用いずに，正確なページ数を記入する。

・文中に著者姓があらわれる場合には，丸括弧内で再録（例3 a）せずに，例3 bのように記す。

- 例3 a 柴田（柴田\_1978, 29-30），小塩（小塩\_1992, 86-87）に見られるように，  
 例3 b 柴田（1978, 29-30），小塩（1992, 86-87）に見られるように，

・文中で執筆者の著作を指示する場合，査読に際して執筆者名が判明しないよう，「拙著」「拙稿」「別稿」ではなく執筆者の姓で記す。出版予定の文献については記載しない。

・複数巻からなる文献から引用箇所を示す場合，例4のように，巻号の後にコロンを挿入し，ページ番号を示す。コロンの後にスペースは入れない。

- 例4 (Kusnierek\_1992, 3:125)  
 (勝田\_1982, 2:963)



- ・参照文献として巻号そのものを挙げる場合には、例5のように、「vol.」あるいは「巻」等を挿入して、ページ数を示す場合との混同をさける。

例5 (Pasler\_1995,\_vol.\_2)  
(後藤\_1991,\_第4巻)

- ・複数の文献を挙げる場合には、例6aのように、文献と文献をセミコロンで区切る。参照ページが複数巻にわたる場合には、例6bのように、著者名を繰り返さずに巻と巻をセミコロンで区切る。

例6a (Cook\_1998,\_83-84;\_DeNora\_2000,\_19-20)

例6b (Pasler\_1995,\_2:2,\_35;\_3:50-53)  
(角倉\_1997,\_1:141;\_4:330,\_450)

- ・参考文献の特定ページの注を参照する場合は、例7のように、ページ数の後にスペースやカンマを入れずにn (noteの略) と注番号を記す。

例7 (Taruskin\_1996,\_95n2)

※著者-刊行年方式になじまない資料（たとえば著者の苗字が特定できない写本等、あるいは行政資料等）の場合、略号を用いることができる。その際には、「引用文献」の冒頭に「文献略号一覧」を付す。

※文献の表記方法については、Chicago Manual、ウィンジェル『改訂新版 音楽の文章術』等を参照し、適切な方法で統一すること。

- ・古典文献において「著者姓・発行年」という書き方がなじまない場合は、適切な書き方を用いてよい。

例8 『源氏物語』「若菜上」

- ・古典籍の引用については基本的に日本語文献に準じ、漢字については原則として日本の常用字体を用いる。ただし必要に応じて原書の表記（正字体・旧字体・異体字など）を用いてよい。仮名遣いについても原文の歴史的仮名遣いを用いてよい。

\*ページ数については「第〇葉表」「第〇葉裏」「第〇丁表」「第〇丁裏」等の表記を用いる。

\*ただし影印本においては底本の葉数（丁数）ではなく、影印本のページ数を用いる。

- ・漢文の引用文については、特に訓点の施し方を論ずる上で必要な場合を除き、訓点（返り点）は用いない。
- ・日本の古典文献と同様、漢文文献においても必要に応じて書名・篇名の表記を適宜簡略化してよい。

例9 『礼記』「楽記」

例10 『周礼』「春官宗伯・大師」

例11 『晋書』卷16「律曆志上」

例12 『宋史』卷311「晏殊伝」

- ・現代中国語による著作や論文については、基本的に日本語文献に準ずる。

\*中国語原文の引用は原則として日本の常用字体に改める。ただし特に必要な場合は簡体字・繁体字の使用を妨げない。

## 8 引用楽譜・図版・写真等について

- ・譜例や図表，写真については，「譜例 1」「図 1」「表 1」等の番号とキャプションをつける。番号とキャプションは，譜例等の前に提示する。譜例・図表・写真に付されるキャプション，説明文も原稿の字数に含まれる。

例

表 1 『音楽学』論文等の掲載数（2011-2018 年度）

	第 57 卷 (2011)	第 58 卷 (2012)	第 59 卷 (2013)	第 60 卷 (2014)	第 61 卷 (2015)	第 62 卷 (2016)	第 63 卷 (2017)	第 64 卷 (2018)
論文	7	5	5	10	3	5	7	9
研究と報告	0	0	1	0	0	0	0	0
書評	5	12	11	15	10	14	12	14
紹介	0	0	0	1	1	3	2, 報告 1	3

- ・著作権表示が必要な楽譜等を使用する場合は，必ず該当箇所にも明示する。著作権表示が必要か否かの判断や，それに伴う出版社や著作権者との手続き等は，執筆者本人が行う。その際『音楽学』が学術刊行物であること，紙媒体の冊子体で出版されること，発行 1 年後にウェブ上でも公開されることを伝えた上で，許諾を得る。著作権使用料が派生した場合には執筆者の自己負担とする。

9 各種記号の使用法				
名称	記号	用法	例	備考
中黒	◻	名詞の並列	東洋・西洋	
ピリオド	。	1. 欧文単語の省略 2. 名前の省略	ed. J. S. バッハ	ピリオドの後に半角スペースを挿入。 全角記号の場合にはスペースは不要。
傍点	・	特に力点を置く字句		
ダブル引用符	“ ”	欧文引用文		
角括弧またはブラケット	[ ]	1. 引用文への補足・修正 2. 書誌情報の補足		和文では全角で表示
丸括弧またはパーレン	( )	補足的な説明		和文では全角で表示
鉤括弧	「 」	1. 和文引用文 2. 雑誌論文等の和題目 3. 強調		
二重鉤括弧	『 』	1. 「 」内での引用文 2. 和書名, 和雑誌名	『音楽学』第1巻1号	
二重山括弧	《 》	作品名	《カンタータ第82番：我は満ち足れり Ich habe genug》 (BWV 82)	
山括弧	〈 〉	曲集、組曲内の一楽曲のタイトル オペラのアリアなど	《冬の旅》より 〈菩提樹〉 《クープランの墓》より 〈リゴドン〉 《ディドとエネアス》より 〈私が土の下に横たわるとき〉	不等記号< >とは異なるので注意
ハイフン(欧文用フォント)	- (Times New Roman)	1. 欧文の単語を繋げる 2. 数字の分離 (ISBN 番号、CD 番号) 3. 複合語による固有名詞を繋ぐ	<i>19th-Century Music</i> ISBN978-4-7907-1617-4 MDG 613 1911-2 Jean-Jacques Baden-Baden	en ダーシより短い

ハイフン(日本語用フォント)	- (MS 明朝)	和文において数の範囲を示す(生没年, 文献の頁数, 小節数等)	モーツァルト (1756-1791) 125-130 小節とコーダ	組版の時点で二分ダークに変換 欧文のハイフンより長い  *波ダークは原則として用いない
en ダーク	—	1. 欧文において数の範囲を示す (生没年, 文献の頁数) 2. 複合語をつくる	1686-1750 38-40 Sonata-allegro form	N の幅のダークでハイフンよりやや長く em ダークより短い
em ダーク	—	欧文において、文中に語句を挿入する場合に前後に置く	The influence of French composers—Debussy and Ravel—is obvious in his work.	M の幅のダークで en ダークよりやや長い
3-emダーク	———.	同一著者の表示	Lewin, David. ———.	em ダーク 3 個とピリオド
二重ハイフン	=	複合語による外国語の固有名詞を繋ぐ	ジャン=ジャック	欧綴ではハイフン
二倍ダーク	——	1. 和文における挿入句 2. 和書の副題を示す		全角 2 字分使用
リーダー	……	省略		全角 2 字分使用 (1 字分に 3 点)
リーダー	[……]	引用文中の中略		全角 2 字分使用 (1 字分に 3 点) ブラケットに入れる
ルビ		ふりがな(漢字の上に)	<small>おんがくがく</small> <small>へんしゅう</small> 『音楽学』編集	